



センターWebページへ

トップ

[研修講座の概要\(1\)](#)[研修講座の概要\(2\)](#)[講座紹介・受講者の声](#)[研究発表会レポート](#)

ハイライト:

「平成24年度センター研修講座」を特集します。

当センターでは、幼児児童生徒一人一人が夢に向かって主体的に取り組むよう学習活動を充実させるべく、効果的な研修の実現に向けて取組を進めて参ります。

目次:

平成24年度 研修講座の概要(1)	2
平成24年度 研修講座の概要(2)	3
講座紹介・受講者の声	4
研究発表会レポート お役立ち情報	5

青森県総合学校教育センター センターだより

巻頭言

「発達障害者の就労の現状と相談ニーズへの対応」

「障害者雇用状況報告から」

平成23年11月に青森労働局職業安定部より、「障害者雇用状況報告のまとめ」が出されました。障害者雇用については、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に、民間企業、国及び地方公共団体では、一定割合の障害者を雇用しなければならないと規定されています。一般の民間企業（従業員数56人以上の規模の企業）では、法定雇用率で1.8%以上を雇用しなければならないとしております。青森県では平成23年6月1日現在、1.67%でした。全国平均では1.65%となっています。

「障害者雇用率の対象について」

事業主は、法定雇用率で算定される障害者数以上の「身体障害者」（身体障害者手帳を所持）、「知的障害者」（愛護手帳を所持）を雇用する必要があります。また、「精神障害者」（精神障害者福祉手帳を所持）を雇用する義務のない事業所において、「精神障害者」を雇用している場合には、事業所において雇用障害者数に含むことができます。平成22年8月5日公布・施行の「障害者基本法の一部を改正する法律」により、障害者の定義が、「身体障害者、知的障害者、精神障害者（発達障害者を含む。）」となり、精神障害者福祉手帳を取得した「発達障害者」もその対象となりました。

「発達障害者の就労に係る課題と就労支援のポイント」

2010年2月梅永雄二氏は、その著書「発達障害がある人の就労相談」の中で、「発達障害者の退職理由」について、「職場で期待される能力と発達障害者である本人ができる仕事、やりたい仕事にズレがあった。また、発達障害について理解している企業が少ないために、同僚・上司の無理解があったと考えられる。」と述べています。また、「発達障害者の就労支援のポイント」として以下の3点をあげています。

- 1) 適切なジョブマッチング（生徒に合った仕事を探す、仕事に生徒を合わせない）
- 2) 職場との連携（生徒の特性や興味、長所を説明する）
- 3) ジョブコーチによる支援の活用（職場と生徒本人の調整を行う）

こうしたことから中学校、特に高等学校段階では、就労体験に基づく職種の理解や仕事に就くための準備、職場から必要とされることなどの理解が大切になります。また、職場側の生徒理解のために、就労前後における支援体制の充実が求められます。

「就労等の相談ニーズへの対応」

昨今、若年無業者、新卒者の早期離職が問題になるなど、学生・生徒の社会・職業への移行が円滑に行われていない状況を踏まえ、キャリア教育の推進が高校の学習指導要領改訂の基本的な考え方として示されました。若年無業者の中には高い割合で発達障害者がいると言われています。当総合学校教育センター特別支援教育課には、今年度「発達障害のある児童生徒の就学、学習、進路及び行動の理解と対応等」に関する教育相談や研修会の講師依頼が多く寄せられました。

今後、発達障害者の就労等に係る相談ニーズにも応えられるように、関係機関と広くつながり、さらなるスキルアップを図っていきたいと考えています。



青森県総合学校教育センター
特別支援教育課長 敦川 真樹

[トップ](#)[研修講座の概要\(1\)](#)[研修講座の概要\(2\)](#)[講座紹介・受講者の声](#)[研究発表会レポート](#)

平成24年度研修講座の概要（1）

青森県総合学校教育センターでは、本県学校教育の充実振興に資するため、教職員の専門性及び資質能力の向上を目指した研修講座を、【基本方針】を基に編成しました。

【基本方針】

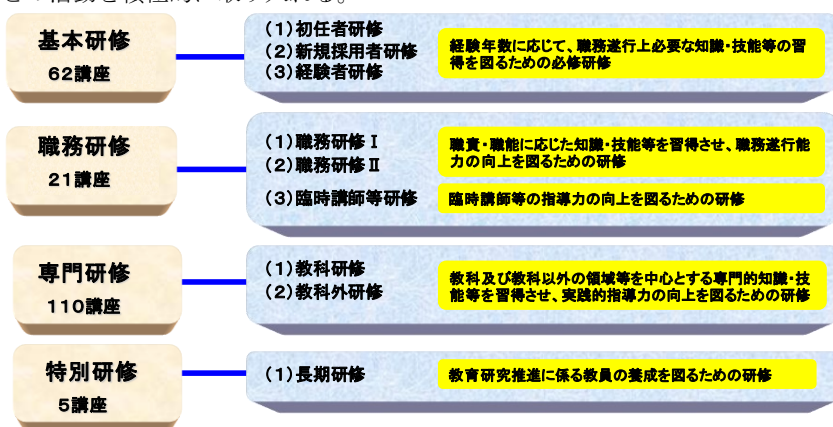
- 1 教育活動の基本理念を重視する。
- 2 社会の変化に伴う教育課題の解決を支援する。
- 3 特色ある教育、特色ある学校づくりを支援する。
- 4 教職員のライフステージに応じた構成にする。
- 5 受講者にとって魅力ある講座内容とする。

【重点】

「基本方針」を踏まえ、次の①、②を重点として、研修講座の充実を図ります。

- ① 学習指導要領（教育要領）の趣旨・内容に対応し、次に掲げる内容を積極的に取り入れる。
 - ・「言語活動の充実」に関する内容
 - ・「個に応じた指導」、「特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育」についての内容
 - ・「指導と評価の一体化」についての内容
 - ・「教育の情報化」に対応した内容
 - ・「校種間の連携・接続」に関する内容
- ② 演習・協議などの活動を積極的に取り入れる。

【研修体系の概要】



平成24年度は、全198講座のうち196講座（他2講座は隔年実施）を開催します。特に次年度は、受講者が、受講して良かったと思えるような講座にするため、講座内容の更なる改善を図りました。講座名を変更したり、サブテーマを新たに設定した講座もあります。特に、教科研修の国語科及び教科外研修の教育相談に関わる講座では、今までの研修内容を整理し、講座を再編成しました。国語科及び教育相談に関わる講座の編成の概要は次の通りです。

○ 国語科に関わる講座は、これまで、主に領域別に講座を構築していましたが、次のような観点で検討しました。

- ① 国語教師としてのスキルアップを意識して、受講者が自分の経験やスキルに応じて講座を選ぶようにする。
- ② 新学習指導要領の趣旨に対応するため、「言語活動の充実」「読解力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」といったテーマ別の講座内容にする。
- ③ 各講座において、国語科における喫緊の課題に焦点をあてた講義等を設定するとともに、演習等で扱う言語活動や教材をサブタイトルで具体的に示すことで、毎年受講しても満足してもらえる内容にする。

具体的には、次のような講座を開設します。

◆201「小・中学校国語科授業力向上講座」－教材分析と発問のポイント－

学習指導に必要な基礎的・基本的な指導技術等について研修し、授業力の向上を図る講座です。今年度は、教材分析・発問の仕方にスポットを当てた研修を行います。日常の授業におけるスキルアップを目指した内容です。

◆202「小・中学校国語科言語文化指導講座」－古典と書写へのアプローチ－

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の授業づくりを中心に、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育み、豊かな言語感覚を養う指導の在り方を探ります。特に今年度は、古典の指導と書写の指導にスポットを当てるとともに、小・中学校の接続についても考えます。

◆203「小・中学校国語科読解力育成講座」－文学的な文章における「読むこと」指導の授業改善－

論理的な思考力・豊かな想像力を育てるため、言語活動を通して読解力を育成する単元構想について研修し、授業改善と指導力の向上を図る講座です。特に今年度は、文学的な文章を教材にした学習指導の在り方について考えます。

◆204「高等学校国語科教育講座」－言語活動を取り入れた「読むこと」の指導と評価－

高等学校の国語科において「思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かに」するための指導について研修する講座です。今年度は、様々な言語活動を取り入れた「読むこと」の指導と具体的な評価方法について検討します。

[トップ](#)
[研修講座の概要\(1\)](#)
[研修講座の概要\(2\)](#)
[講座紹介・受講者の声](#)
[研究発表会レポート](#)

平成24年度研修講座の概要（2）

◆205「国語科言語活動実践講座」－「読む」(朗読)力と論理的な文章を書く力の向上を目指して－
実生活で生きてはたらき各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を育成するために、教師自身の言語活動を行う能力の向上を目指します。今年度は、「朗読」のスキルアップのための演習を行います。

◆206「国語科教材開発講座」－太宰治作品の教材化と単元指導計画の作成－
郷土の作家や作品についての理解を深め、それを教材化した単元の指導計画を作成する発展的な講座です。今年度は、太宰治に焦点を当てた教材と単元開発に取り組みます。

○ 教育相談に関わる講座は、講座内容を整理し、定員枠・受講条件の撤廃や講座名の変更等を行い、学校現場のニーズに応じた講座に再編成しました。具体的には次の通りです。

① これまでの初級講座、中級講座、上級講座、心理検査実技講座のそれぞれの内容を基に再編成した講座

◆601「教育相談Ⅰ」－子ども一人一人をより深く知るために－
個々の児童生徒の理解に関する内容を中心とした講座です。

◆602「教育相談Ⅱ」－学級でのよりよい人間関係づくりを目指して－
人間関係、集団づくりに関する内容を中心とした講座です。

◆603「教育相談Ⅲ」－Q-U等を用いた学級集団理解と対応－
学級集団理解の方法等に関する内容を中心とした講座です。

◆604「教育相談Ⅳ」－実践！支援体制づくり－
チーム支援体制づくりに関する内容を中心とした講座

② これまでの初級講座、中級講座の中で取り上げていた内容で、次の視点に特化して編成した講座

◆606「より効果的な生徒指導体制づくり研修講座」－地域関係機関との連携を通して－
関係機関との連携等に特化した講座です。

◆608「保護者とのよりよい信頼関係づくり研修講座」
保護者との信頼関係づくりに特化した講座です。

③ 名称や内容を変更した講座

◆605「支え合う学級づくり研修講座」－いじめや気になる子への対応－
いじめだけでなく、気になる子への対応を含む学級づくりに関する内容を中心とした講座です。

◆607「今日から始める不登校対策研修講座」
不登校の未然防止だけでなく、実際の対応を含む不登校対策に関する講座です。

その他の講座の詳細等については、「研修講座案内一覧」を各学校に送信しておりますので、ぜひ御覧ください。最後に、新しい講座をいくつか紹介します。

◆125「高等学校実践力フォローアップ研修講座（前期）（後期）」

採用後、2年目及び3年目の高等学校教員が対象で、前期は、HR経営、生徒理解のためのカウンセリングについての講義・演習などを行い、後期は、教材研究、評価計画と評価規準についての講義・演習などを行う研修講座です。前期・後期とも2日間の日程で、より実践的なHR経営力、教科指導力の向上を図る講座です。

◆273「観て実感する理科観察講座」－細胞から太陽まで－

サブタイトルを「細胞から太陽まで」と題して、生物・地学分野で、実体顕微鏡、光学顕微鏡、走査型電子顕微鏡、天体望遠鏡を用いて、まさに観て実感する講座です。新学習指導要領の内容を踏まえ、基礎的・基本的な内容から応用的な内容まで扱います。また、授業や探究活動及び課題研究の発展的な学習に役立つ素材も提供します。

◆346「中・高等学校家庭科教育講座」

乳幼児との触れ合い体験や高齢者との交流などを取り入れ、子どもを生み育てることの意義について実感させる手法を体験から学び、その学習活動の充実に向けた家庭科教員の実践的な指導力の向上を図る講座です。1日目には「親・家族、乳幼児の発達」と題し、青森中央短期大学准教授 玉熊 和子 氏を講師に迎え講義・演習をしていただきます。

◆507「地域資源を発掘！魅力ある地域創造講座」

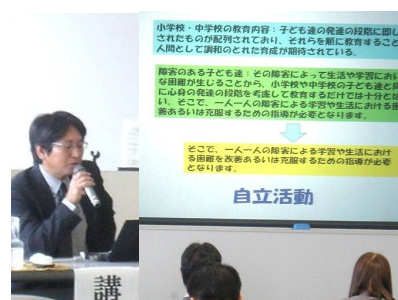
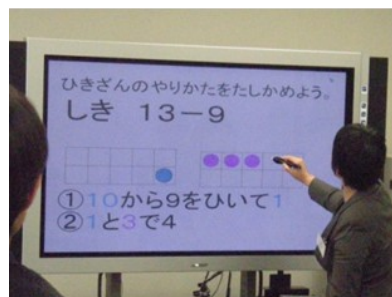
地域資源の発掘や地域の価値を高める手法を学び、地域産業の担い手を育成する農業・工業・商業・家庭など専門教科の教員の実践的な指導力の向上を図る講座です。ビズデザイン株式会社代表取締役 木村 乃 氏を講師に迎え、1日目には「魅力ある地域とは」「青森県の魅力を考える」、2日目には「地域の魅力を伝えるプロモーション企画技法」と題して講義・演習をしていただきます。

◆511「小・中学校ICT活用実践講座（前期）（後期）」

学習指導案作成と教材開発及び授業実践を通して、ICTを活用した教科指導力の向上を図る講座です。前期は、学習指導案及び教材作成を中心に、1日目には、尚美学園大学教授 小泉 力一 氏を講師に迎え、「授業における効果的なICT活用」と題して講義をしていただきます。後期は、授業実践の報告を行います。

[トップ](#)[研修講座の概要\(1\)](#)[研修講座の概要\(2\)](#)[講座紹介・受講者の声](#)[研究発表会レポート](#)

メンタルトレーニング演習の様子

自立活動講座の様子
(川間健之介教授の講義)

ICT機器活用講座の様子

講座紹介・受講者の声

これまでに開催された講座の様子を、受講者の声を交えて担当者が紹介します。

「講座番号510 運動部活動研修講座」

この講座は「指導者が変われば選手が変わる！」をキーワードに、以下の3つの構成で研修を行っています。青森県で初めて紹介した「コーディネーショントレーニング」と「メンタルトレーニング」では、著名な講師陣による講義・実技に惹かれ、毎年受講する方も多く、また、他県からの聴講者がいるなど、「熱気溢れる講座」、「受講して良かった講座」として好評を得ています。

① 発表「私の部活動経営」中学校・高等学校教諭各1名

② 講義・実技「コーディネーショントレーニング」

NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会公認講師から、分かりやすく丁寧に教えて頂きます。実技は目からウロコの連続です。体育の授業にも即活用できる内容です。

③ 講義・演習「競技力向上のメンタルトレーニング」

一流選手の後ろに高妻先生あり。メンタルトレーニングの第一人者である東海大学教授 高妻 容一 氏から、本当のメンタルトレーニングを直に学ぶチャンスです。

◆受講者の声

- ・ 昨年にも受講しとても感動した。コーディネーショントレーニングを自チームの練習にも、少しだが取り入れてみた。指導者側が生徒の動作をかなり意識して観察しなければならぬのは大変だが、言葉の選び方等が変わり、生徒もパフォーマンスが変わったように感じている。もっと勉強したいと思う。
- ・ メンタルトレーニングについて、自分が抱いていた概念が全く違っていったことに気づいた。自分が変わるチャンスを与えてもらった。やる気を高めてくれて本当にありがとうございました。

「講座番号709 自立活動研修講座」

講座初日は、筑波大学教授 川間 健之介 氏をお招きし、「自立活動の指導と評価」と題して講義を行いました。川間先生は、平成21年6月に告示された「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」の編集に携われており、講義前半は、自立活動の理念や26項目の指導事項についての詳しい説明がありました。後半は、受講者からの質問に対して実践事例を交えて丁寧な回答をいただき、受講者からは「具体的な例を交えてのお話がとても参考になった」「担当する生徒に合わせて工夫して実践することで、効果が期待できると感じた内容がたくさんあった」という感想が多数聞かれました。

2日目前半は、県立八戸盲学校教諭 泉澤 明德 氏、県立弘前第一養護学校教諭 加福 千佳子 氏が実践を発表しました。お二人の発表者から、視覚障害や知的障害を専門とする特別支援学校で行われている自立活動の内容や使用されている支援ツール、工夫した実践の紹介がありました。後半は、自立活動の指導内容を作成する演習でした。特別支援学校はもちろん、特別支援学級の教員も受講しており、それぞれが、自身の実践を見直したり、整理したりする良い機会となりました。

「講座番号808 授業に活用！拡大表示のためのICT機器活用講座」

本講座は、教科指導にICTを活用するために「目線を上げて大きな資料で【見せる】授業をするための体験型研修」として開催しました。

1日目は、プロジェクターや電子黒板を使用して、写真やスライド及び動画などの教材を拡大表示するICT機器の効果的な活用法についての研修を行いました。実際にホワイトボードや黒板、大画面ディスプレイで投影した場合の見え方の違い、パソコンを使わない拡大表示、実物投影機やICT機器の接続などを小グループに分かれて体験しました。

2日目は、午前中に投影方法を意識したスライド教材の作成を行い、午後に自作した教材をICT機器で大きく投影して説明する実演をしました。受講者は、それぞれのICT機器の特性について理解し、授業での活用例として情報を共有しました。

◆受講者の声

- ・ 実際に機器に触れて操作することができて良かった。
- ・ これまでできなかった技能を学ぶことができ、とても参考になりました。学校に戻ったら他の先生に教えたい。
- ・ 何となく考えていたことがどうすれば実現できるかが分かったことで、より具体的に考えられるようになった。
- ・ いろいろ使ってみて、授業で活用して子どもたちの集中力を高めたり、定着させたりしていきたい。

トップ
研修講座の概要(1)
研修講座の概要(2)
講座紹介・受講者の声
研究発表会レポート



センター研究発表会
(部会別研究発表会－教育相談－)



センター研究発表会
(部会別研究発表会－情報教育－)

センター研究発表会レポート

新たな年を迎えた1月6日(金)、当センターを会場に「平成23年度青森県総合学校教育センター研究発表会」が開催されました。この発表会は、当センターにおける研究成果を教育関係者はもとより広く一般の方も対象として、本県の教育の向上に役立てるという趣旨で毎年行われているものです。

今年度は、教育関係者148名、10年経験者112名、長期講座受講者16名と合わせて276名の参加者があり、研究発表会に対する関心の高さがうかがわれました。研究発表会前日まで降雪が続き交通障害も心配されましたが、混乱もなく無事終了されたことに安堵しております。

発表は、指導主事、研究員、長期講座受講者の計36名が教育相談、特別支援教育、情報教育、教科教育の四つの分野に分かれて発表しました。いずれの発表も、今日的な教育課題をテーマにした内容であったため、参加者は真剣に聞き入り、充実した研究発表会となりました。

特に参加者が多く関心を集めていた発表は、教育相談では「特別な配慮を要する児童へ対応するための学校支援の在り方」「教師と保護者が信頼関係を構築するための研究」、特別支援教育では、「発達障害児のための支援システムに関する研究(2)」、情報教育では、「教育の情報化推進における学校内体制・組織に関する研究」でした。また、教科教育では、「数と計算の領域において、筋道を立てて考え、表現する力を育成する指導法の研究」などに参加者が多く、熱心な質疑応答が行われていました。

研究成果については、研究紀要にまとめられ、当センターWebページでも閲覧できるようになりますので、ぜひご覧になり実践に役立てていただければ幸いです。

お忙しい時期にもかかわらず、お出でくださった皆様、本当にありがとうございました。来年度の研究発表会も今年同様、一日の日程で平成25年1月9日(水)の開催を予定しております。来年度も多数の参加をお待ちしております。

お役立ち情報

今年度第4次購入分の新着図書の一部をご紹介します。今年度の新着図書・視聴覚教材の一覧はセンターWebページに掲載されています。今年度からは、県内の各学校の要覧やシラバス、センターが主催した講座の資料なども、図書資料室内で閲覧できるよう配架してあります。また、学校等支援講師派遣事業と教科指導等の相談窓口につきましては、新年度も継続して実施して参ります。どうぞ御利用ください。

書名	編著者	出版社名
現代的学校マネジメントの法的論点 厳選10講—文部科学省若手職員が学校管理職の疑問に答える	高橋洋平	第一法規
学級が変わる！授業が変わる！「クラスファシリテーション」	大橋邦吉	明治図書
保護者どうまくつきあう40のコツ	編 諸富祥彦	教育開発研究所
確かな学力を育てる数学科の学習指導—補充的、発展的な学習を視野にした指導と評価、評価問題 中学1・2・3年編	編著 磯田正美	明治図書
国語授業の新常識「読むこと」授業モデル&ワークシート 低・中・高学年編	編著 達富洋二	明治図書
社会科教育実践ハンドブック	編 全国社会科教育学会	明治図書
マイクロスケール実験 —環境にやさしい理科実験—	芝原寛泰	オーム社
英語を教える50のポイント	太田 洋	光村図書
「ルールの教育」を問い直す —子どもの規範意識をどう育てるか—	上杉賢士	金子書房
シュタイナーの人間形成論 —道徳教育の転換を求めて—	吉田武男	学文社
養護教諭のための特別支援教育ハンドブック	編著 飯野順子	大修館書店
発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート	編著 齊藤万比古	学研教育出版
障害の重い子どもの授業づくり Part 4	編著 飯野順子	ジヤース教育新社
専門性向上につなげる授業の評価・改善	監 日本肢体不自由教育研究会	慶應義塾大学出版会

なお、平成24年3月16日(金)までは、蔵書点検のため図書の貸し出しはできません。どうぞ、御協力をお願いいたします。

編集後記

早いもので「あの日」から一年が過ぎました。学生時代を仙台で過ごした縁で、宮城県(山元町、石巻市大川小、南三陸町)で復興ボランティアに参加しました。ボランティアには、関東地方からの参加者が多かったのですが、京都府や奈良県、ロサンゼルスなどから参加している人もいました。何か月も続けて活動しボランティアのリーダーとして活躍する大学生、東京から毎週3日間参加し続けているゴルフのレッスンプロ、会社を辞めて車に寝泊まりしながら参加している中年男性…参加者の中にはボランティア病と自称している人も多く見られます。確かに、一度ボランティアに行くと、次はいつ行けるのかなとカレンダーをながめ、財布と相談している自分もその兆候があるのかもしれない。

テレビや新聞などでは、パニックに陥ることもなく、たくましくも謙虚に生きる日本人や過酷な状況の中で黙々と活動する自衛隊員等の姿が報道されました。しかし、実際に行って話を聞いてみるとテレビなどで報道される美談ばかりではない厳しい現実も見えてきます。テレビの中の出来事としてだけでなく、自分の目で見、話しを聞き、空気に触れて感じることも大事だと思います。(広報委員 神 和宏)